

丸 建 第 8 3 3 号

平成20年10月20日

国土交通省 道路局長 殿

丸森町長 渡 辺 政 日



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のあった標記の件について、別紙のとおり回答いたしますのでよろしくお願いします。

宮城県丸森町建設課 課長補佐 引地 電話 72-3030 FAX 72-3042

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

宮城県伊具郡丸森町

道路整備において費用対効果が第一の議論となるが、本町のような地方部では人口が少ないことから、どうしてもその数値が上がらず整備が取り残されてしまい、ますます地域の疲弊が進むという悪循環となっている。

このことは今までの道路行政が都市部への集中となり、地方の整備が後手となった結果、大都市集中の人口構造となり、国土の有効活用や環境面でも多くの弊害を生んできた。東北圏国土形成計画でも論じられてきた地域の多面的な機能提供の貢献度や住民生活の視点に立った評価を再考するべきである。

将来にわたり我が国の安定的な発展を図るためには、地域社会の機能を十分に発揮させることであり、地方の活力や生活基盤を整備し、災害被害軽減の面からも広く人口を分散させ、地域資源を有効に活用することが重要と考える。

この社会資本整備の重要な要素の一つは道路であり、その骨格となる国道については広域ネットワーク整備や高速道路の利点を高める観点からも、積極的な整備に取り組まれることを強く要望する。特に県域を越え複数県にまたがる国道にあっては、国の責任において整備することを望むものである。

また、県や市町村が管理する道路も、国道を支え国土の保全や国の経済に大きな関わりを持っているが、まだまだ整備が不十分であり、これらの整備が地方の負担とならないよう補助率をアップされるようお願いしたい。

②－１ 地域の現状と抱える課題

宮城県伊具郡丸森町

○現状	○課題
(1)少子高齢化 (2)中山間地域の活力低下 (3)災害時の人命救助・生活の安定不安	(1)高齢者医療増加傾向の中、救急医療・高次医療対応機会が増しているが、道路整備の立ち遅れが救命への阻害要因となっている。 また、児童生徒の減少での教育環境の改善から、学校の統廃合が避けられない状況下であるが、安全な通学路の確保の点でも道路の整備が急務である。 (2)当町では、豊かな自然や歴史文化が育んできた地域資源を生かした産業振興や交流人口の拡大による経済の活性化を町づくりの柱としている。 このための手段として、物流の確保や企業誘致、人的交流での観光産業の振興を進めているが、このために必要な道路インフラが脆弱であるため、目標達成に大きな障害となっている (3)町の中央部を流れている阿武隈川は、福島県境で狭窄部となっており、近年の大雨でたびたび国道冠水となり、集落唯一の生命線が絶たれる状況にあり、通行不能・集落孤立による生活不安を余儀なくされている。

②－２ 地域の目指すべき将来像

宮城県伊具郡丸森町

町では長期総合計画の中で、住民と行政が課題と目標を共有し、地域個性を生かした町づくりを進めることを主眼とし、これを進める上で、町内はもちろんのこと、町と他市町村との多面的な交流を進め、活力ある産業や新たな文化を創出し、町の個性を高めていく目標の計画としている。

この中では 6 つの柱を基本としているが、特に生活環境、産業・労働、観光交流の分野が大きなウエイトを占めている。「安心安全で快適に暮らせるまち」の項目では、道路環境の整備、公共輸送体制の充実、防犯・防災対策の充実、環境に配慮した町づくり推進など、「豊かな資源を生かした産業が根付くまち」では農林業の振興、広域連携での工業の振興、「町民自らも楽しみながら交流するまち」では交流活動と資源を生かした体験型観光の推進を掲げている。

当町は県境に位置していることから、これらを進める上で他県との交流なくしては目標の達成は難しい地理的条件にあるが、決していい道路環境といえない現状にあり、その整備の立ち遅れは本町のみならず、圏域の経済発展の妨げとなっている現状にある。

道州制など大きな枠組みでの政治経済圏が論じられている今、高速道路などの有効活用が図れる交通ネットワーク整備が重要であり、このことが地方の活力を生み出し、地域資源を共有できる国益にもつながると考える。

③ 道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

宮城県伊具郡丸森町

○重点事項	○代表事例	○期待される効果や評価等	○その他
・地域産業振興 ・地域資源の活用 ・快適で安全な暮らしの確保 ・交通安全対策	・企業誘致の促進 ・観光交流人口の増加 ・救急医療体制の整備 ・災害時の交通の確保 ・集落密集地の交通安全の確保	・雇用の場の確保による若者定住促進が図られる。 ・観光事業の振興による雇用の場の確保や豊富にある地域資源・地場産品の流通による地域経済の活性化が図られる。また農村の持つ多面的機能活用による環境保全、癒しの場の提供につながる。 ・高齢者医療、高次医療受診体制確保から住民の安心な暮らし実現 ・出水時の交通遮断の回避により、住民の安心安全の確保や、生活物資等の流通の安定が図られる。 ・集落地内の道路環境の改善（歩道などの整備も含めて）により住民の安全な通行と、物流の促進による地域経済の活性化が図られる。	

今後の道路行政についての意見・提案

④ その他（丸森町における具体的な道路整備の必要性）

宮城県伊具郡丸森町

○今後の道路行政について

丸森町においては、車社会の中でその動脈となる国県道が未整備な現状にある。町は宮城県の最南端に位置し、福島県に面積の約半分が突き出した地形であるが、国道4号、6号沿いから外れており、直接的にこの幹線国道の恩恵を受けていない。

町を縦断する国道113号は、太平洋側の相馬港と新潟県までの日本海側を結び、大きな経済効果が期待できる幹線道路であるが、未整備箇所が多くその役割を最大に果たしているとはいえない現状にある。現在宮城県において阿武隈川に架かる丸森大橋を含め、国道113号舘矢間バイパスを平成23年度完成に向けて工事が進められており、現在丸森町中心部を通り大型車が交差できないルートの交通不便箇所の解消は図られるが、町内金山地区中心集落部は直角カーブと大型車の交差もスムーズにできず歩道のない危険な状況であり、福島県と接する大内地区でも同様の道路環境にある。

また、丸森町の北部を通る国道349号は、阿武隈山地を縦断し茨城県水戸市と宮城県柴田町を結ぶ幹線道路である。特に本町内の福島県境部の6kmは普通車さえ交差できず、大型車は通行できない劣悪な道路環境にある。本路線については3県沿線市町村による整備促進期成同盟会でその整備促進を働きかけてきたものであるが、本同盟会の現地調査においても、会員沿線自治体の首長は異口同音に「こんな状況の国道があるのか」と驚愕の声が上がる。また更に阿武隈川狭窄部に沿った路線であり、大雨での増水により5mも冠水し通行不能となる状況が近年ではたびたび発生し、地域の生命線の遮断を招き、緊急対応や物資輸送が不可能となり、沿線住民の生活不安が増大している現状にある。県境付近の右岸を通る福島県伊達市の市道は整備が進み、こうした不安解消が図られているにもかかわらず、国道がこのような状況下にある現状を一刻も早く打破していただくよう切望する。更に東北縦貫道国見インターチェンジから白石インターチェンジまでの間は国道4号と平行して走り、縦断的には県境の峠越えの路線配置となっている。冬季は積雪も多く大雪や路面凍結による事故がたびたび発生し交通障害が多々発生している現状であり、縦断的な優位性や最短距離で両県間を連絡できる本路線は非常時の迂回路や消費燃料削減での環境への配慮からも極めて大きな役割を担える要素があるところで、早急な計画と実施を強く要望するものである。

なお、道路行政に対する考えを下記に列記した。

- 1, 複数県にまたがる国道にあつては、幹線動脈道路としての役割を担うものであり、国において整備を進めるべきものである。
- 2, 幹線道路沿線自治体の地域活性化計画がより具現化できるよう、国道整備の期間を明確に示した整備を進めていただきたい。
- 3, 国道と連結する地方道路に関してもまだまだ整備を進めていかなければならない現状である。特に県境に位置する当町における県道の整備率は県内下位であり、中山間で広大な地域に集落が点在している当町では、道路の整備を今後とも進めていかなければならない状況にある。国土保全の見地からも地方財政を圧迫しない助成の増強を図ること。

以上